



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2023年9月17日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

”銭湯を消さない”「銭湯活動家」になった若者の思い

17日(日)＝1、3面



迫る

銭湯に懐かしい思い出をお持ちの方は多いのではないのでしょうか。大きな湯船と「カコーン」とおけが響く音、湯船の中でのびのびと体を伸ばす心地よさ―。でも、そんな魅力がある銭湯は今、なくなりつつあります。

「消えゆく銭湯を守りたい」。そう決心し、銭湯業界に飛び込んだ若者

がいます。京都市を拠点に廃業寸前の銭湯を継業、復活させている「ゆとなみ社」代表を務める湊三太郎さん(33)＝写真。

アパレル会社に就職したのですが、「やめておいたほうがいい」という周囲の忠告を振り切って京都の老舗銭湯の継業に挑戦しました。しかし、待っていたのは水漏れ、

業務に支障が出るほどのクレーム客への対応といった困難ばかり。心身ともに疲れ、1年を節目にやめるつもりだったのですが、あることをきっかけに事態は好転。若者を呼び込む工夫も成功しました。

「死ぬまで銭湯に入りたい」と願う湊さんの行動に迫ります。



熱狂生むサーモン陸上養殖 19日(火)＝1、3面

回転ずしで「よく食べるネタ」として断トツのサーモン。世界的にも需要が高まる中、陸上に「プラント」とも言える大きな施設を建設し、サーモンを生産する動きが日本各地で相次いでいます。事

業に乗り出すのは金融や経営の世界に身を置いてきたビジネスマンたち。津市や静岡県小山町では外資企業が大規模な陸上養殖場を建設中です。彼らの狙いは何なのか、詳しくレポートします。



サーモン陸上養殖場の建設状況を説明するソウルオブジャパンの久原文規さん＝津市森町で2023年7月3日、柳楽未来撮影



コンパクトシティー構想の中核として期待されながらも経営破綻した駅前ビル「アウガ」＝青森市で2023年8月11日、宮城裕也撮影

商業施設や住宅を中心部に集約させる「コンパクトシティー」構想は、疲弊する地方都市の「切り札」として、約30年間にわたり期待されてきました。しかし、いまだに明確な成功事例を築くことができていません。



コンパクトシティーの失敗く青森を歩くく

18日(月)＝1、3面

背景には、中心市街地活性化を掲げつつ、郊外開発も推進する国のチグハグな政策もある指摘されています。記者が実際に街を歩き、「失敗の本質」を探りました。

特集 ワイド



日本武道館で行われた安倍晋三元首相の国葬＝2022年9月27日(代表撮影)

「国葬ルールどうなった？」

22日(金)＝夕刊2面

国論を二分した安倍晋三元首相の国葬から9月27日で1年。岸田文雄首相は「国葬の検証とルール化を検討する」と約束し、有識者たちから意見をヒアリングしましたが、ルール化は見送られたま

まです。ヒアリングに協力した東京工業大の西田亮介准教授(社会学)と、国葬を批判してきた名古屋学院大の飯島滋明教授(憲法学)に話を聞きました。

お子さんやお孫さんが聞いたことのない言葉を使っている。そんな経験がある人も多いのでは。時代が変わる言葉は変化し、辞書や新聞に載る言葉も変化します。校閲記者が辞書を参考に、に、辞書編集者も新聞を参考にすることも。毎日新聞は28日にオンラインイベント「ことば茶話第1回 広辞苑と校閲記者の“厚い関係”を開催します。言葉に関する方は必見！詳しくはQRから。(斎藤広子)



竹橋の窓辺から

編集後記

